

第 13 回 古民家デイサービス YEAH YEAH YEAH

運営推進会議 報告書

事業者名 住 所	一般社団法人 TKCGroup 広島県廿日市市玖島 4340 番 1	
事業所名 住 所	古民家デイサービスセカンドハウス YEAH YEAH YEAH 広島県廿日市市玖島 4340 番 1	
開催日時	令和 7 年 6 月 30 日	
開催場所	セカンドハウス YEAH YEAH YEAH デイルーム	
参 加 者	ケアマネジャー	1 名
	利用者家族	1 名
	地域住民	欠席 1 名 理由:病欠
	地域包括センター	1 名
	代表理事	1 名
	管理者	1 名
	施設職員	1 名
議 題	1. 利用者状況報告 2. 活動状況報告 3. 機能訓練実施状況報告 4. 質疑応答	
利 用 者 状況報告	○利用状況 利用定員 14 名。利用者 23 名(男性 9 名、女性 14 名) 事業対象者:2 名/支援 1:3 名/支援 2:0 名 要介護 1:10 名/要介護 2:2 名/要介護 3:4 名/要介護 4:2 名/要介護 5:0 名 平均介護度 1.8 送迎状況 玖島 2 名 永原 4 名 河津原 4 名 栗栖 0 名 友田 2 名 津田 3 名 浅原 2 名 峠 6 名 男女比率 男性 39% 女性 61% 年齢比率 69 歳未満 0% 70 歳代 9% 80 歳代 61% 90 歳以上 30% 最年少 78 歳 最年長 100 歳 平均年齢 87 歳 平均利用回数1名/週 3.0 回 週 1 回:5名 週 2 回:5名 週3回:5 名 週4回:3 名 週5回:2 名 週 6 回:3 名	

活動状況 報 告	前回 R6.12.1 と R7.6.28 現在の介護度別利用登録者の比較			
		R6.12.1	R7.6.28	差
	事業対象者	2 名	2 名	0 名
	要支援 1	7 名	3 名	-4 名
	要支援 2	1 名	0 名	-1 名
	要介護 1	14 名	10 名	-4 名
	要介護 2	2 名	2 名	0 名
	要介護 3	2 名	4 名	2 名
	要介護 4	1 名	2 名	1 名
	要介護 5	0 名	0 名	0 名
	合計	29 名	23 名	-6 名
5月まではほとんど変動がなく-1 名でしたが、6 月に施設入所や入院により5名が減少しました。 曜日別の空き状況 利用登録者の減少はありましたが、4名の方が利用回数を増やされたことと入院などの待機者がいるため、各曜日満員になっています。それにより曜日別の利用回数の変化はありませんでした。				
活動状況 報 告	2025 年1月～6 月の期間に実施した年間行事を報告 1 月 「笑う門には福来る」巨大福笑い 2 月 鬼退治ゲーム～叩いて被って福は内！～ 3 月 「ひな祭リスゴロク」いざ、ひな壇のてっぺんへ 廿日市サンブレイズ主催～応援健康ダンス～ 4 月 一番の探偵は誰!?エイプリルフール「嘘当てクイズ」 花見(小瀬川温泉) 5 月 夏も近づく八十八夜～茶摘み体験ゲーム～ 6 月 YEAH YEAH YEAH トントン相撲大会～梅雨場所～			

機能訓練 実施状況	①個別機能訓練加算(要介護者のみ) ◇平均介護度 1.39(前回)→1.81 ◇期間 令和 6 年 11 月～令和 7 年 5 月 ◇日常生活自立度 約 30%が自立(前回)→約 20%が自立へ減少 約 50%(前回)が準寝たきり→62%が準寝たきりへ増加 利用者様の増加と減少、要介護度の高い方の利用が増えたことが自立の減少と準寝たきりの増加に影響になったのではないかと考えられます。同じ方でどの程度の変化があったのかも今後は考察していこうと思います。
--------------	--

機能訓練 実施状況	プログラム内容の比較 ◇筋力増強訓練 ◇バランス訓練 ◇基本動作訓練 ◇歩行訓練 全国的にも筋力増強訓練や歩行訓練は多くの事業所が実施している。 当施設ではバランス訓練が全国よりも多い割合で取り入れられています。 事業所データのフィードバックとして 【要介護の方】 ◇2024 年 11 月～2025 年 5 月で比較した場合、生活・認知機能の尺度を表す変化はあまりありませんでした。内容の比較を行った際、前回同様当施設は全国に比べ【服薬管理ができない方】が多く、7 割の方が介助が必要であり、家族の協力やデイサービスでの管理なども対策として必要であると考えられました。 ◇【身近なものを置いた場所がわからない】【日常に起きたことを覚えておくことが難しい】といった機能が前回の評価と比べて多くなっており、平均介護度が上がっていることも原因として考えられます。ただこれからの取り組みとして、身近なものを隠して「何が無くなりましたか？」とゲームで思い出しを鍛えることや、季節の行事や出来事の思い出しなど、近時記憶を強化するレクリエーションを実施していくことで認知面の機能向上につながるのではないかとといったデータとなりました。
運営委員会 からの評価	ケアマネジャー様 ・入院などで空きが出来ると何かしているのか教えてほしい。 (待っている待機者の方や利用回数を増やした方が良さそうな方に声掛けをしている) ・内服が出来ない人たちはどんな方が多いか？ (家族が近くに住んでない一人暮らしの方が多い。施設にいられて朝と帰りに薬を飲むなどの工夫が必要。) ・服薬ロボットなどの取り入れはないのか？ (地域的な問題になるが、この地域で服薬ロボットの取り扱いがない) ・施設の食事はどうしている？ (施設で作っている。きざみ食やとろみ食も対応している。ムース食は外注になる) ・気温が上がってきたが、送迎後の暑さ対策はどうしている？ (エアコンや蔵庫にある麦茶などの飲み物をコップに入れ勧めるなどをしている) 地域包括様 ・いろいろなことを工夫している。 ・年間行事の写真を見て、皆様がとても楽しそうなのが伝わってきた。 ・資料が凄く分かりやすかった。 ・空があれば自分の担当も紹介したい。

運営委員会 からの評価	利用者家族様 ・年間行事などのレクリエーションの小道具がとても凝って作られているがどうしてる？ (空いた時間や自宅で作っている。職員の家族も協力してくれ助かっている) 施設職員 ・イベントの準備は大変だが皆様にとっても喜んで頂けるのでやりがいがある。
------------------------	---

今後の 提案・課題	1. 介護度上昇・自立度低下への対応 利用者の平均介護度が上昇し、準寝たきりの方が増えているため、機能訓練プログラムの更なる見直しと、認知機能維持につながる日常的な脳活性レクリエーションを強化する。 2. 登録者数と利用調整 6月に利用者減少が見られたが、曜日ごとには満員状態が続いている。入所・入院などで空きが出た際に、待機者や利用回数調整で速やかに対応できる仕組みを継続する。 3. 服薬管理の支援 一人暮らし利用者の服薬忘れが課題となっている。服薬チェックシートやカレンダーなど、地域資源を活用した代替策の導入を検討する。 4. 職員・家族の負担軽減 年間行事やレクリエーションの準備に職員・家族の負担が大きいため、計画的な事前準備や地域ボランティアの協力をさらに推進する。 5. 地域交流と外出支援 行事や外出企画を継続し、地域とのつながりや社会参加の機会を確保する。今後とも地域イベントとの連携を模索する。
----------------------	--